

第一回リスナー参加型

天下一学問会

高校レベル

解答解説

現代文

作問者…四宮式

問題数…大問三問

記述式

解答時間…六十分

出題背景

センター試験を参考に製作した。第一問については小説や論説文に頻出する四字熟語の理解を求めたものである。第二問、第三問はともに小説の読解となっており、文章を論理的に読み解けているかどうかを求めている。

なお著作権法上の問題が絡んでいるため、問題文は出題者本人の自作小説を使わざるを得なかった。二作品とも小説となっている点にご留意いただきたい。

解説

第一問(ア・ウ…三点、イ・エ…二点)

(ア)豪放磊落…度量が大きく、些細なことにはこだわらないこと

(イ)勸善懲惡…善行を推奨し悪行を戒めること

(ウ)四面楚歌…周りには敵対する者しかおらず、誰も助ける者がいない状況

(エ)諸行無常…この世にある全ての万物は常に変化し、永久不変のものはない。

※それぞれ実用日本語表現辞典から抜粋

第二問

問一(ア・イ…三点、ウ…四点)

(ア) 正解は①。

直上に「酒」が指定されているため。「煽る」には「勢いをつける」という意味がある。

(イ) 正解は③。

「縛り付けている」は直後の「新型コロナウイルス」の形容動詞である。文中には新型コロナウイルスは「ストレスと不便を縛り付けている」と書いてある。この情報を元に選択肢から最も適切なものは③ということが分かる。

(ウ) 正解は②。

四つの似たような選択肢から最も適切な用語を探す問題のため、この中では最も難しい。①③は②④と比較してより主人公の感情に距離が近い言葉となるが、文中にはそれを

示す文章を見つけないことができない。よって②④のいずれかとなるが、④の「雰囲気を作っている」は「気分を」という直上の単語と適合していない。よって答えは②となる。

問二(十点) 正解は②。

①はそれに該当する記述がない。④は「様々な負の感情が渦巻き」に該当する記述がない。③についてだが、岡田がこの状態に気が付いたのは新幹線に乗った以降である。②の「動揺」のみ、「なぜか酒が飲みたくなった」という一文から推察することができる。

問二(十点) 正解は②。

①③④はそれぞれ「現実を忘れようとするため」「現実から逃れるため」「負の感情が渦巻き」と書いてあるが該当する記述は本文中には見られない。唯一「動揺」のみが直後の一文で推察できる、唯一間違っていない回答となる。

問三(十点) 正解は④。

①②は「悲しみに暮れた」とする記述が見受けられないため誤り。③④の二択となるが、ここで傍線部内の「どんよりとした雲」がガラスをたたきつける音がわずかに聞こえる」と書いてある点に注目する。レトリックとしてこの二つの情景描写は「陰鬱」が適当であるため④が正解となる。

第三問

問一(十点) 正解は①。

③は文章が分かりにくい、特別な行事そのものを「ぼく」は不必要だとするという記述が誤り。④は変化のある日常を「ぼく」がストレスだと感じている記述が存在しないため誤り。①と②の二択となるが、②「努力」と書かれている点に注目する。直前に将棋部が「熱中」しているとあるが、努力と熱中はそれぞれ異なる意味を持つ言葉であるため①が正解となる。

問二(十点) 正解は③。

見惚れていると断定できる記述がないため①は誤り。②と③に注目する。傍線部の一文は「こんなときに変に勘ぐったりしないのは助かる」とある。この一文から、「ぼく」は悠花が勘ぐったりしないことを既に知っていることを意味する。そのため「分かっているため」とはつきり書いてある③が正解となる。

問三(十点) 正解は③。

傍線部の段落とその次の段落が一つに意味段落になっている点に注目する。この意味段落では「ぼく」が得た疑問についての掘り込みがされている。すると①の音楽関連の説明は全くなく、②のような悠花の行動を示す記述がないことが分かる。

問四(十点) 正解は②。

関係とは双方向のかかり合いのことを示す言葉である。①は「ぼく」のみの記述であり、③はそもそも関係を表した文章ではない。④だが「ぼく」は頭は寄せていない。

問五(十点) 正解は③。

どれも正解に見えるが唯一③のみが行動ではなく主人公の感情を表していることが分かる。「営み」の意味は「物事をする」という意味であるため、それを説明する文章は全て行動を説明していなければならない。

問六(乗算) 正解は「四宮式」。

これまでの点数がこの問題の書き方次第で乗算される。なお採点者は四宮式本人であり、その性格は非常に気まぐれなことで知られている。二作の小説はカクヨムに掲載されているのでぜひ読んで欲しい。